

第10号
R5. 12月



【発行・編集】
滑川町教育委員会
TEL0493-56-6907

町の子供は町で育てる

「3つの合言葉」元気・学び・会話

滑川町教育委員会だより

「学んでよかった町へ -チーム滑川での教育-」

～今年1年を振り返る～

今年も残すところ後1ヶ月となりました。年末の風物詩となっているユーキャン新語・流行語大賞の候補が発表され、候補の言葉を見ていると「今年1年色々なことがあったな」と考えさせられます。例えば、4年ぶりの声出し応援、WBC野球関連等、昨年に比べ明るい話題がありましたが、ロシアによるウクライナ侵攻に加えてパレスチナ問題、円安、物価高騰、地球沸騰化はさらに深刻化、闇バイト、OSO18、新しい戦前等、暗い話題も多くみられました。

さて、文化庁は毎年16歳以上を対象にした「国語に関する世論調査」を実施しており、令和4年度の結果が発表されました。その中で「日本語を大切にしているか」との問いには、62.2%が「大切にしている」と答え、その理由として「日本語によって、ものを考えたり感じたり善悪の判断をしたりしていると思うから」が52.9%、「日本の文化そのものであり、文化全体を支えるものだから」が45%と続いていました。

国語への意識については、普段「言葉の使い方に気を使っている」とした人は全体の8割を超えています。世代間でその割合に大きな差はありませんでした。その内容については、「改まった場で、ふさわしい言葉遣いをする」「敬語を適切に使う」「差別や嫌がらせ(ハラスメント)と受け取られかねない発言をしない」の順に高い回答でした。

敬語や丁寧語を、場や相手を尊重して使い分ける日本語の豊かな特性が根付いている証拠でもあると感じました。広がるSNS(交流サイト)など、言葉を取り巻く環境は大きく変化しています。文化や心のよりどころとなる日本語を大切にしながら未来につないでいくことも、私たちの責務ではないかと考えています。

12月を迎え、今年1年を振り返り、私は、やはり「ありがとう」という言葉が思い浮かびます。「ありがとう」は、相手も幸せにする素敵な言葉でもあると思っています。

「この世で最も不幸な人は、感謝の心のない人である」と言われることがあります。何をしても当たって当たり前だと思い、感謝の心がなければ不平不満ばかり出て、幸せを実感することはできません。

私の好きな言葉の1つに「自利利他(じりりた)」があります。自利とは自分の幸せ、利他とは他人の幸せです。自分の幸せがそのまま他人の幸せになり、他人の幸せがそのまま自分の幸せになるということです。これは、近江商人の活動理念として有名な言葉である「売り手よし 買い手よし 世間よし」いわゆる「三方よし」の精神にも通じます。お客様(買い手)に喜んでもらうことはもちろん、世間への貢献ができてこそ良い商売であるという考え方です。私たちは、一人では生きていけません。多くの人のおかげで生きています。このような言葉を思い浮かべながら、今年1年を締めくくればと思っています。

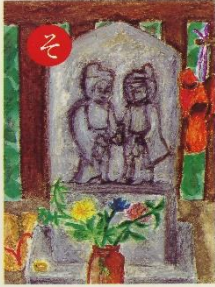
11月号の「一手の決断は準備から ～「なにかをひとつ」～」の文章の中で、棋士の中村太地(だいち)氏、棋譜(ぎふ)と書きましたが、正しくは中村太地(たいち)氏、棋譜(きふ)でした。

お詫びするとともに、訂正させていただきます。御指摘いただき本当にありがとうございました。

滑川町のよさを知ろう! 「滑川郷土かるた」を通して No.11

集落の道端には石仏がよく見られます。今回は「石仏に関わる札」を紹介します。

祖母の足 早く治れと 道祖神



道路の悪霊を防いで、行人を守護する神でサイノカミとも言われ、足の神様であるとされています。足の悪い人が願をかけ、治ると草鞋(わらじ)を供えます。

町内各地にあります。羽尾の糠ヶ谷戸にある男女双体のドウロクジンが有名です。羽尾のほか伊古や福田にもあります。

農道の 辻願いの 石仏



町内旧道の道ばたには、至る所にたくさんの石仏が祀(まつ)つてあります。馬頭観音・庚申塔・月待塔等々です。昔の人々が、心のよりどころを求めた厚い信仰の現れであったのでしょう。

村境や沼のほとり、辻、橋のもと等に造立され、人々は自分たちの身近な神様として信仰していました。現在その数は、500基以上を数えます。

クリスマスおはなし会にお越しください

12月13日(水)、16日(土)に Xmas おはなし会を開催します。両日とも、11時から図書館2階の視聴覚室で行います。準備の都合上、事前予約をお願いします。サンタさんもやってくるかもしれません。申し込みは、図書館窓口か、電話でお願いします。☎56-3433

12月から、図書館にクリスマスツリーを飾ります。このツリーをサンタさんへの伝言で、楽しくにぎやかに飾ってください。用紙や筆記用具は図書館で準備してあります。サンタさんも楽しみにしていると思います。多くの方の参加をお待ちします。

令和5年は多くの方に御来館いただき、誠にありがとうございました。

サンタさんへの伝言を書いてね



1周年記念! 給食米飯を 年間、谷津田米に

なだらかな丘陵地の間に広がる水田を「谷津田」といい、谷津につくられたため池(=谷津沼)の水を利用した伝統的な農法で作られた米を『谷津田米』といいます。町では、大昔から変わることなく、「谷津沼農業」による米作りが続けられています。昼と夜の気温差が大きい谷津と特有の粘り気のある土壌で、おいしいお米が作られます。

「滑川町谷津田米生産者組合」の御協力により、昨年11月29日から給食の米飯の全てを『谷津田米』にいただいています。

皆さんの子供を思う気持ちを感じながら、残さず食べてもらいたいものです。



滑川町では明治の中頃から「ころ柿」と呼ばれる干し柿が生産されており、昭和15、16年をピークに消滅の危機に陥っていました。そこで、町や町民が中心となって、武州ころ柿復活に向けた取組が開始されました。
今、伊古を訪れると柿を干す光景が見られます。



こんな特産物もあるよ♪

クリの品種「ぼろたん」の焼き栗は、皮ぎしが残っているため風味が高くじっくり焼くので甘く、とても美味しいです。町の生産量も増えてきております。直売所に並ぶとすぐになくなってしまふほど人気です。販売は終わっています。

